

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	合同会社スマイルシェア デイスペースきみいづらす		
○保護者評価実施期間	R 7年 12月 24日		~ R 8年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	R 7年 12月 24日		~ R 7年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R 8年 1月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士・理学療法士・言語療法士が療育に参加し直接支援や家族支援を実施	各機能訓練士が療育に携わることで利用児の発達について評価を行い療育や個別支援計画の立案・実践に役立てている。また発達や特性に関する悩みについても適宜、相談対応している	引き続き各機能訓練士と連携し利用児や保護者への支援の実施。今後は保護者、職員向けの学習会や講演会を企画できればと考えている
2	療育室が広く隣室に運動室もあり五領域を考慮した支援の実践、のびのびとした空間での支援を提供できる	子ども達の興味関心を受け止め、手指活動、運動遊び、感触遊び、リズムなどいろいろなものにチャレンジできるよう支援している	利用児の発達・特性に合わせての支援プログラムの充実を図る
3	多機能型事業所で放課後等デイサービス、生活介護の利用者と一緒に活動。縦割り保育、インクルージョン療育の実践	お兄さん、お姉さんたちと一緒に遊びながら活動。年上は年下の子のお世話をする中で優しさや思いやり、面倒を見る責任感が育つ。またお手本になるようにすることでリーダーシップが育ち頼られる経験から自己肯定感に繋がっている。年下の子は年上の子の真似をする中で向上心や憧れから遊びや行動の幅が広がり様々な刺激を受け、安心感をもって成長できるなど実感	多様な人間関係を学ぶことで優しさや思いやり、慈しみの心が育つ。異なる年齢・価値観の子どもと関わることで他者との違いを学び、社会性の発達を養う。遊びの発想も豊かになり実社会で求められる多様な人との関わり方の基礎を幼児期から育むなど放デイの利用時にとっても学び場となっている。今後も継続し支援に取り入れていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、一部の職員が対応。職員間の情報量や知識、経験の差が大きい。	職員間の情報・知識の格差 児童発達支援においての必要な知識やスキル、経験不足	職員全員で対応できるよう支援に関わっていく。また児童発達支援に必要な知識やスキルを学び、様々な事例にも対応できる人材を育成
2	療育室が2階。トイレが一階にしかなく事故防止、安全面での十分な配慮が必要。	構造上の問題ではあるが、部屋からの飛び出し等、利用児の事故防止、安全に十分配慮した支援が必要	トイレ移動時は必ず職員が付き添い、安全留意、事故防止に努める。ドアなどの施設、間隔などスクリーン等を用いて事故防止に努める。
3			